

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600511
法人名	有限会社エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 杜の家
所在地	愛媛県西条市朔日市892番地
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓こ)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの建物は平屋で広々とした田舎風の落ち着いた雰囲気のある住まいです。 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけています。 ・玄関にボードを置き利用者の方の写真を飾ったり月の予定を貼り、普段の生活を知ってもらうよう努めています。 ・毎年、餅つき大会や夏祭り大会を開催し地域の方にも参加してもらっています。 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、月1回避難訓練を実施しています。 ・H22年3月末通所介護併設され、リハビリなど行い利用者さんとの交流があります。 ・サービスの質を向上する為に、勉強会や勤続年数に応じた研修を行っています。 ・近隣に協力医療機関があり、1回/2週の往診や希望時はいつでも受診が行えます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設10年目を経た事業所は、海の近くにある一見そば屋と間違えるような建物で、杉の木をふんだんに使用した和風の雰囲気をしており、リビングは杉の木の梁が見える吹き抜けで落ち着いた空間となっている。杜をイメージした敷地内の芝生や木々にもこだわりがあり、利用者は日頃から散歩や家庭菜園での野菜づくりを楽しんでいる。また、近隣には協力医や訪問看護事業所があり、整った環境となっている。事業所の夏祭りには多くの地域住民が訪れて盛大な催し物として定着している。近所の保育園との交流も恒例となっており、地域とのつながりは深いものになっている。特に、運営推進会議で行うミニ介護講座を通して、地域に介護や福祉、認知症ケアに関する情報を発信しており、地域住民に「認知症のことならなんでも相談できる」事業所として浸透している。毎月、社内研修を行い職員教育に力を入れており、代表者は職員も学ぶことで支援を振り返ったり、改めて気づくことを大切にしていきたいと考えている。また、毎月、避難訓練を利用者と一緒に実施しており、職員の防災意識の高さが伺える。栄養バランスの取れた食事やおやつは手作りし、利用者の食べる楽しみも支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム杜の家

(ユニット名) 北

記入者(管理者)
氏名 大河内 沙耶香

評価完了日 25年 10月 9日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎朝、申し送りの時に職員全体で理念を復唱している。利用者の方の笑顔を大切にして、ホームで和やかに生活を送ってもらいたいとの思いで、日々業務を通して取り組んでいる。勉強会や研修への参加も職員一人一人が積極的に行っている。</p> <p>(外部評価) 法人の全グループホーム共通の理念をもとに、毎年、職員で話し合っって年間目標を作成し、理念と年間目標の実践に取り組んでいる。職員は、理念を意識することで改めて気づくことがあり、大切にしていきたいと考え、理念に基づく支援を心がけている様子が伺える。利用者の生活を一人ひとりの状況に応じて支援し、笑顔と感謝の気持ちを持って接することに努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所の近所にあるホームセンターやお店に利用者の方と買い物や花を見に行ったりして、お店の方と挨拶をかわしたり会話したりする機会をつくるよう努めている。近くの保育園の運動会にも参加している。</p> <p>(外部評価) 近くの保育園の運動会では、利用者が参加できる競技が生まれ、園児との交流は利用者の楽しみとなっている。秋祭りでは、近隣住民から自治会に声をかけてもらい、だんじりが事業所まで来てくれるようになった。代表者は、「認知症についてここに相談したら安心」という地域に発信していく役割を今後も担ってきたいと、さらなる取組みを検討している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、ミニ介護講座等を開いて、地域の方や家族の方に認知症の方の理解や支援に方法を伝えるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、サービスの内容や事業所の行事、設備について報告している。職員と地域の方々の話し合う場を持ち、多くの意見を頂いている。改善出来る事はすぐに改善し、地域の方々の意見を職員全員に働きかけるなどサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域住民、協力病院のソーシャルワーカー、市担当者、地域包括支援センター職員、近隣施設職員等の参加を得て開催している。会議はミニ介護講座と一緒に開催する工夫をされており、地域住民からは教わったことが役に立っていると好評を得ている。年末には、次年度に取り上げたい議題を募り、次年度の会議に反映している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2カ月に1回、市の相談員が事業所へ来訪してくれている。また、ホーム内での事故や苦情など市町村へ連絡をし、適切な発言や指導を頂いている。また、3カ月に1度、市のサービス向上連絡会に出席し、学んだことを職員に伝えるなどサービス等の質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは様々なことを報告したり相談したりする関係ができており、相互の協力関係が築かれている。市のサービス向上連絡会には市職員が参加しており、話を聞くことができる。定期的に介護相談員の訪問があり、利用者と一緒に話して本音が引き出せる機会となっており、記録票により職員と共有できるようになっている。また、介護相談員から第三者の目で感じたことを伝えてくれることもあり、支援に反映している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内の勉強会や研修、社外研修などを通して、職員一人一人が理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を持ち、業務に取り組んでいる。スタッフ間でも呼びかけ合いながら身体拘束防止に努めている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている。(20:00～8:00)</p> <p>(外部評価) 虐待や身体拘束は社内研修の内容に組み込まれており、職員はレポートを提出し、管理者と代表者がコメントを書き、身体拘束をしない取組みを職員は理解して実践している。居室に鍵はなく、窓も自由に開けられるようになっている。介助の際は必ず声かけをし、利用者自身の気持ちを尊重して支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社外の研修や社内の勉強会で、虐待防止について学んでいる。職員間でも虐待が起こることのないように話し合いや呼びかけをしながら虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社内勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在、事業所内に成年後見制度を利用している利用者の方もいるので、職員一人一人が理解できるよう働きかけるなど努力している。年に 回市の方が事業所へ来られている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方や家族の方には、分かりやすく丁寧に説明をするよう心がけながら、十分な説明を行っている。納得をもらった上で手続き行い、信頼を得られるように努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会を開催して、利用者の方又は家族の方からの意見や要望を表せる機会を設けている。また、日頃から利用者の方や家族の方との関わりを多く持つなど、気軽に何でも言ってもらえるような関係づくりを心がけている。	
			(外部評価) 家族会では、分かりやすくスライドショーを利用して事業所の報告を行った後、家族のみで話し合える場を設け、意見交換や家族同士の交流をしている。出された意見は事業所に伝えられ、運営に反映している。家族には職員から声をかけて、相談がしやすいよう心がけている。年4回、事業所からの便りや写真を家族に送付して家族に利用者の様子を報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月1回スタッフ全員参加の各部署会議や、毎朝の申し送りの時に職員同士の話し合いや意見を聞く機会を設けて、利用者の方に良いサービスを支援できるよう反映させている。</p> <p>(外部評価) 法人内の他事業所との班を設け、月1回実施される会議では、法人からの連絡と支援方法について話し合いを行っている。研修班、安全衛生班、環境整備班、社内新聞班の4つの班があり、事業所間の職員の交流の場となり、活動を通して職員の自主性も磨かれている。職員は代表者や管理者と話がしやすい関係で、相談しながらチームワークを発揮しサービスの向上につなげている。管理者は、代表者に密に連絡を取って事業所の報告を行っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は管理者や職員一人一人の日頃の努力や勤務状況を、その都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 毎月1回社内での全体勉強会があり、実技と講義を受けている。また、社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。社外の研修には、職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書として出している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他施設の運営推進会議に参加させてもらったり、自ホームの運営推進会議に参加してもらうなど、同業者と交流する機会を持っている。また、社外の研修にも参加し、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用を開始時には、本人さんの気持ちに配慮しながら向き合い、ゆっくりと話しを聞くようにしている。要望などを知り得た情報はフェイスシートやアセスメントシートに具体的に記入し、職員間で共有している。また、本人さんのペースに合わせた対応を心がけており、安心してもらえるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には家族さんの要望や困っていること、心配なことなど、ゆっくり時間をかけて聞くよう努めている。また、こまめに電話連絡や面会時にはホームでの様子を伝えるなど、何でも相談しやすいよう、家族さんとの関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方の思いを理解できるようじっくり話し合う時間を設けて、今必要としている支援を見極めるよう対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方に厨房のお手伝いや洗濯物たたみなど、日頃のできることで役割を持ってもらったり、利用者の方と一緒に楽しむということを大切にしている。また、思いやり合うこと、感謝の気持ちを伝えることを心がけて利用者の方との関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方から情報を得たり、面会時にはその都度ホームでの生活状況を報告している。また、ホームの行事にもできるだけ参加して頂き、利用者の方と一緒に過ごしてもらえるよう声かけしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には、馴染みの方とゆっくり過ごしてもらえるように心がけている。また、外出は行うように心がけているが、馴染みの場所への外出支援は十分に行えていない。また、馴染みの方や場所の話しを会話の中にも取り入れるよう心がけている。	
			(外部評価) 利用者のフェイスシートには、利用者や家族から聞いた馴染みの人や場を追記して毎年更新し、誰が見ても利用者がわかるように書類を整理している。病院受診の帰りに家族と外食をできたり、西条祭りのときに自宅に外泊するなど、これまでの関係を継続できている利用者もいる。入居して長い利用者には、利用者同士での新たな馴染みの関係ができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中で利用者の方と職員が関わる時間を多く持ち、利用者の方同士の関係が把握できるように見守りや声かけを行い、孤立しないように努めている。また、座る位置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方の面会へ行き、家族の方からの相談に応じたりその後の様子を伺ったりしている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気づくりを心がけており、得た情報はフェイスシートを利用して職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては家族の方に相談したり日々の関わりの中で言葉や表現から把握するように努めている。 (外部評価) 士いじりが上手な利用者や畑や花壇の手入れを行ったり、家族の家事を長年してきた利用者とは食事の下ごしらえを行ったりと、利用者の暮らし方を尊重した支援に取り組んでいる。思いや意向を表すことが困難な利用者は、表情やしぐさをよく見て細かいことにも目を向けて把握し、職員間で話し合い利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し職員間で共有している。同一法人内の別事業所を利用されていた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。医療面に関してはカルテに赤枠で記入し、大きな変化の時には、ケアプランやフェイスシートに記入しながら、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度、介護計画書の見直しを行っている。	
			(外部評価) サービス担当者会には、利用者や家族、看護師、介護支援専門員、職員等が参加して、介護計画の見直しを行っている。職員は、介護記録を見返したり利用者の情報を伝え合ったりして、計画の見直しに活かしている。モニタリングは3か月に1回行っている。記録ファイルに利用者毎の目標をはさみ、介護計画に基づいてケース記録を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践などはカルテに記載しているが不十分などところがある。また、気づきや状態の変化は、カルテや介護計画書に付け足して記入するなど、見直しの際に活かしている。情報の共有については朝夕の申し送りや入居者情報を用いて伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また地域の運動会やお花見など個別のニーズに合わせて参加するようにしている。医療面では訪問看護にフォローしてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くのスーパーで買い物をしたり、パン屋さんも来てくれており楽しまれている。近隣の病院や市の相談員の方、警察の方の協力や、防火訓練時には消防の方にも来てもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の方、家族の方の意向を確認し、協力病院がか かりつけ医になっている方が多いが、入居前からのか かりつけ医を継続されている方もいる。受診後には受 診状況を家族の方に連絡している。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としてい る。月2回、協力医の往診があり利用者の健康管理を している。受診時には家族に受診状況を報告し、情報 を共有している。利用者が希望するかかりつけ医を、 家族の協力を得て受診することができ、受診状況や検 査結果を家族から事業所に報告し共有できるようにし ている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 利用者の方の健康管理や状態の変化に応じた支援を 行っている。また、職員はいつもと違う様子に気づい た時には協力病院へ連絡をし、受診をしたり、本社の 訪問看護ステーションの看護師に報告し相談も行って いる。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入退院時には、主治医や、ケースワーカーとの連携を 持ち、情報交換を行い退院後の受け入れ態勢を整える ように努めている。また、医療機関の勉強会に参加す るなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 終末期を迎えるにあたり、早い段階から家族の方、医 師との話し合いを持っている。終末期に関しての指針 (家族の方、主治医の協力がある。医療行為は行わな い)を定めており、説明を行うようにしている。職員 間の意識の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針と同意書を作成しており、入居時 に説明し、利用者や家族の意向を聞くようにしてい る。協力医とは24時間体制での連携が取られてい る。また、隣接するデイサービスの看護師や訪問看護 職員、看護師の代表者との体制も整えられ、利用者は 安心して生活を送ることができている。終末期の支援 には家族の協力を得ており、家族は夜間に利用者の居 室に泊まることで支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を毎月行い、2回/年の訓練時は消防署の方立ち合いのもと、夜間想定での避難訓練を行っている。近隣の病院や企業に協力の依頼をしている。昨年より1回/年津波想定での避難訓練を導入し行っている。 (外部評価) 毎月、避難訓練を利用者と一緒に行っており、職員の防災意識の高さが伺える。また、年2回の消防署の協力を得た訓練では、夜間を想定して通報や非常ベルなどの初期対応や避難を行っている。事業所は海から近く、津波に対する避難訓練を年2回に増やす予定である。備蓄品として、水、非常食、おむつを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の関わりの中で、人生の先輩として人格を尊重した関わりを持つように努めている。今後も、職員同士で声をかけ合いながら、常に声かけや対応に配慮するよう心がけていきたい。 (外部評価) 利用者への言葉づかいは、職員同士で声かけをして気を付けている。入浴や排せつ、着替えなどで同性介護が必要な時は、利用者の気持ちに配慮して対応し、声かけの方法について職員間で共有するように努めている。認知症ケアの社内研修があり、利用者一人ひとりを尊重するケアが心がけられている。書類は事務所で保管し、個人情報の保護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が自分で選択・決定できるような言葉かけを心がけている。自己表現しにくい方には表情やしぐさなどから思いをくみとり、職員間で情報の共有に努めて利用者の方に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り、利用者の方の希望を聞き、本人さんのペースに合わせて生活してもらえよう努めているが、自己表現しにくい方や自分で歩くことの出来ない方は本人さんのペースで過ごせていない場合もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時に洗顔した時にくしで髪をといてもらっている。介助の必要な方に関しては職員がこまめに目やにをふきとったり整髪するなど意識して行っている。服装もなるべく好みの物を着てもらっているが、選べない方に関しては、職員が選んでしまっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々の食事作りは職員が行っているが、エビの皮むきやもやしなどの根とりなどの下ごしらえや、おかずのつき分けなどは利用者の方と一緒にしている。また、1回/月昼食作りやおやつ作りなどを計画し、一緒に作るなど楽しみにつながるよう努めている。	
			(外部評価) 調理を中心に担当する職員がおり、台所で3食の食事とおやつを手作りし、利用者からおいしいと喜ばれている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。月1回、利用者と一緒にたこ焼きや焼きそばなどを作り、利用者が食事を楽しめるよう取り組んでいる。誕生日会では、ケーキをみんなで作ったり、利用者の食べたいものを食べに外食へ出かけたりするなど、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が、栄養バランスを考え献立を作成し記録表に食事や水分摂取量を記入して必要量が確保できるように心がけている。また、状態に応じて水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけを行い、利用者の方に応じた口腔ケアを行っている。定期的に、義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 出来るだけ時間や習慣を把握する為に一人一人の排泄情報を記録している。排泄記録表を確認しながらトイレ誘導を行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分のみ介助に心がけている。</p> <p>(外部評価) 排泄記録表には、利用者毎の排泄状況のほか、水分量や食事量も記入して、排泄間隔や体調を把握している。職員は、利用者のしぐさに気づくように努めており、トイレへの誘導をして排泄を支援している。夜間のみ居室でポータブルトイレを利用したり、オムツを使用する利用者もおり、身体状況に合わせて排泄用具を選択している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食事やおやつにて消化のよいものや野菜類など多く食べてもらっている。また、水分摂取量確認し、飲みにくい方に関しては、ポカリやココアなど本人さんの好まれる物で水分を十分に補うようにしている。リハビリや散歩で体を動かすようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) その都度、利用者の方に声かけして、意向や希望を確認し入浴してもらっている。熱めのお湯が良いのか、ぬるめが良いのか湯船に入るのかなどその都度声かけして確認しながら気持ち良く入浴できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 脱衣室や浴室は余計なものは置かずにつっきりと片付け、利用者が動きやすいように配慮されている。入浴回数は夏は週3回、冬は週2回を目安として、利用者の入りたいときに入浴できるよう支援している。利用者の好みの湯の温度、入浴剤、シャンプーなどに対応したり、体調に応じて清拭や足浴の支援を行い、利用者一人ひとりの入浴、清潔、安楽の支援に取り組んでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その時の様子や体調などに合わせて居室で休んでもらったり、ソファでくつろいでもらったりしている。気持ち良く休んでもらう為にベッド周辺の環境整備にも努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カルテに薬の説明が記載されている表を閉じ、理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干しや洗濯物たたみ、食事の準備などの状態に応じて、できる事をしてもらっている。嗜好品については、食事以外で近くのスーパーへ一緒に買い物へ行ったり、ホームに来られるパン屋さんを利用し、それぞれ利用者の方の好きなパンを買って食べてもらったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方で希望にそって戸外に散歩に出かけたり、近くのお店で買い物をしたりしている。行事の時にも外食に行くなど家族さんの方の協力を得ながら行っているが、かたよった利用者の方になってしまっている。 (外部評価) 日頃から敷地内や事業所の周辺を散歩したり、近隣のホームセンターへ買い物に出かけたりできるよう支援している。車いすの利用者には、事前に外出先の下見をして外出できるよう取り組んでいる。車両が3台あり、利用者全員で遠足に出かけることもある。利用者から趣味であるカラオケや野球観戦に行きたいなどの希望があり、今後、希望に応じた外出に対応できるよう検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の協力を得てお小遣い程度で持ってもらっている方もいるが、ほとんどの方はホームでお金を預かったり、立て替え等で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員の介助にて、家族の方と希望時に電話で話してもらっている。手紙の支援は現状出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 掃除に心がけており、換気や室温調整に努めている。子供っぽくならないように気を付けながら花など季節に応じた物を飾るようにしている。テレビの音や職員の声のトーンに気をつけ、日中は眩しくないように、時間や天候に合わせてレースのカーテンを使用している。</p> <p>(外部評価) 事業所は和風の造りで、杉の木をふんだんに使用しており、落ち着いた色の木材や暖かい色の照明を使い、和やかな雰囲気を感じる空間となっている。掃除を徹底することを心がけており、環境整備班を中心に定期的に点検をして、清潔で居心地の良い事業所を目指している。庭が広く芝生が敷かれ、花壇や畑では季節の植物を育てている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、自由に過ごせるようにしている。また、玄関先のベンチでゆっくりと過ごされたり、気の合う利用者の方同士、居室を隣同士に配置し、好きな時に一緒に過ごしたりできるように工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、自宅で使っていたものを持って来られ、家族の方の写真や絵を置いたりされている。また、好まれる花を飾っている方もおり、居心地良く過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、テレビ、整理ダンス、ベッドが備え付けられており、ベッドは身体状況に合わせて変更している。季節ごとに衣替えを家族と担当職員が一緒に行っており、整理整頓されている。シーツ交換や掃除を利用者と一緒に行うこともあり、できることを一緒に行うようにしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。廊下には歩行の障害になるものは置かないようにしている。また、各居室には名札があり、わかりやすくしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600511
法人名	有限会社エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 杜の家
所在地	愛媛県西条市朔日市892番地
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの建物は平屋で広々とした田舎風の落ち着いた雰囲気のある住まいです。 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけています。 ・玄関にボードを置き利用者の方の写真を飾ったり月の予定を貼り、普段の生活を知ってもらおうよう努めています。 ・毎年、餅つき大会や夏祭り大会を開催し地域の方にも参加してもらっています。 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、月1回避難訓練を実施しています。 ・H22年3月末通所介護併設され、リハビリなど行い利用者さんとの交流があります。 ・サービスの質を向上する為に、勉強会や勤続年数に応じた研修を行っています。 ・近隣に協力医療機関があり、1回/2週の往診や希望時はいつでも受診が行えます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設10年目を経た事業所は、海の近くにある一見そば屋と間違えるような建物で、杉の木をふんだんに使用した和風の雰囲気をしており、リビングは杉の木の梁が見える吹き抜けで落ち着いた空間となっている。杜をイメージした敷地内の芝生や木々にもこだわりがあり、利用者は日頃から散歩や家庭菜園での野菜づくりを楽しんでいる。また、近隣には協力医や訪問看護事業所があり、整った環境となっている。事業所の夏祭りには多くの地域住民が訪れて盛大な催し物として定着している。近所の保育園との交流も恒例となっており、地域とのつながりは深いものになっている。特に、運営推進会議で行うミニ介護講座を通して、地域に介護や福祉、認知症ケアに関する情報を発信しており、地域住民に「認知症のことならなんでも相談できる」事業所として浸透している。毎月、社内研修を行い職員教育に力を入れており、代表者は職員も学ぶことで支援を振り返ったり、改めて気づくことを大切にしていきたいと考えている。また、毎月、避難訓練を利用者と一緒に行っており、職員の防災意識の高さが伺える。栄養バランスの取れた食事やおやつは手作りし、利用者の食べる楽しみも支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム杜の家

(ユニット名) 南

記入者(管理者)
氏名 大河内 沙耶香

評価完了日 25 年 10 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎朝、申し送りの時に職員全体で理念を復唱している。利用者の方の笑顔を大切にして、ホームで和やかに生活を送ってもらいたいとの思いで、日々業務を通して取り組んでいる。勉強会や研修への参加も職員一人一人が積極的に行っている。</p> <p>(外部評価) 法人の全グループホーム共通の理念をもとに、毎年、職員で話し合って年間目標を作成し、理念と年間目標の実践に取り組んでいる。職員は、理念を意識することで改めて気づくことがあり、大切にしていきたいと考え、理念に基づく支援を心がけている様子が伺える。利用者の生活を一人ひとりの状況に応じて支援し、笑顔と感謝の気持ちを持って接することに努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所の近所にあるホームセンターやお店に利用者の方と買い物や花を見に行ったりして、お店の方と挨拶を交わしたり会話したりする機会をつくるよう努めている。近くの保育園の運動会にも参加している。</p> <p>(外部評価) 近くの保育園の運動会では、利用者が参加できる競技が生まれ、園児との交流は利用者の楽しみとなっている。秋祭りでは、近隣住民から自治会に声をかけてもらい、だんじりが事業所まで来てくれるようになった。代表者は、「認知症についてここに相談したら安心」という地域に発信していく役割を今後も担ってきたいと、さらなる取組みを検討している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、ミニ介護講座等を開いて、地域の方や家族の方に認知症の方の理解や支援に方法を伝えるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、サービスの内容や事業所の行事、設備について報告している。職員と地域の方々の話し合う場を持ち、多くの意見を頂いている。改善出来る事はすぐに改善し、地域の方々の意見を職員全員に働きかけるなどサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域住民、協力病院のソーシャルワーカー、市担当者、地域包括支援センター職員、近隣施設職員等の参加を得て開催している。会議はミニ介護講座と一緒に開催する工夫をされており、地域住民からは教わったことが役に立っていると好評を得ている。年末には、次年度に取り上げたい議題を募り、次年度の会議に反映している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2カ月に1回、市の相談員が事業所へ来訪してくれている。また、ホーム内での事故や苦情など市町村へ連絡をし、適切な発言や指導を頂いている。また、3カ月に1度、市のサービス向上連絡会に出席し、学んだことを職員に伝えるなどサービス等の質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは様々なことを報告したり相談したりする関係ができており、相互の協力関係が築かれている。市のサービス向上連絡会には市職員が参加しており、話を聞くことができる。定期的に介護相談員の訪問があり、利用者と一緒に話して本音が引き出せる機会となっており、記録票により職員と共有できるようになっている。また、介護相談員から第三者の目で感じたことを伝えてくれることもあり、支援に反映している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内の勉強会や研修、社外研修などを通して、職員一人一人が理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を持ち、業務に取り組んでいる。スタッフ間でも呼びかけ合いながら身体拘束防止に努めている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている。(20:00～8:00)</p> <p>(外部評価) 虐待や身体拘束は社内研修の内容に組み込まれており、職員はレポートを提出し、管理者と代表者がコメントを書き、身体拘束をしない取組みを職員は理解して実践している。居室に鍵はなく、窓も自由に開けられるようになっている。介助の際は必ず声かけをし、利用者自身の気持ちを尊重して支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社外の研修や社内の勉強会で、虐待防止について学んでいる。職員間でも虐待が起こることのないように話し合いや呼びかけをしながら虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社内勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在、事業所内に成年後見制度を利用している利用者の方もいるので、職員一人一人が理解できるよう働きかけるなど努力している。年に 回市の方が事業所へ来られている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方や家族の方には、分かりやすく丁寧に説明をするよう心がけながら、十分な説明を行っている。納得をもらった上で手続き行い、信頼を得られるように努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会を開催して、利用者の方又は家族の方からの意見や要望を表せる機会を設けている。また、日頃から利用者の方や家族の方との関わりを多く持つなど、気軽に何でも言ってもらえるような関係づくりを心がけている。	
			(外部評価) 家族会では、分かりやすくスライドショーを利用して事業所の報告を行った後、家族のみで話し合える場を設け、意見交換や家族同士の交流をしている。出された意見は事業所に伝えられ、運営に反映している。家族には職員から声をかけて、相談がしやすいよう心がけている。年4回、事業所からの便りや写真を家族に送付して家族に利用者の様子を報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月1回スタッフ全員参加の各部署会議や、毎朝の申し送りの時に職員同士の話し合いや意見を聞く機会を設けて、利用者の方に良いサービスを支援できるよう反映させている。</p> <p>(外部評価) 法人内の他事業所との班を設け、月1回実施される会議では、法人からの連絡と支援方法について話し合いを行っている。研修班、安全衛生班、環境整備班、社内新聞班の4つの班があり、事業所間の職員の交流の場となり、活動を通して職員の自主性も磨かれている。職員は代表者や管理者と話がしやすい関係で、相談しながらチームワークを発揮しサービスの向上につなげている。管理者は、代表者に密に連絡を取って事業所の報告を行っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は管理者や職員一人一人の日頃の努力や勤務状況を、その都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 毎月1回社内での全体勉強会があり、実技と講義を受けている。また、社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。社外の研修には、職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書として出している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他施設の運営推進会議に参加させてもらったり、自ホームの運営推進会議に参加してもらったりなど、同業者と交流する機会を持っている。また、社外の研修にも参加し、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用開始時には、本人さんの気持ちに配慮しながら向き合い、ゆっくりと話しを聞くようにしている。要望などを知り得た情報はフェイスシートやアセスメントシートに具体的に記入し、職員間で共有している。また、本人さんのペースに合わせた対応を心がけており、安心してもらえるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には家族さんの要望や困っていること、心配なことなど、ゆっくり時間をかけて聞くよう努めている。また、こまめに電話連絡や面会時にはホームでの様子を伝えるなど、何でも相談しやすいよう、家族さんとの関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方の思いを理解できるようじっくり話し合う時間を設けて、今必要としている支援を見極めるよう対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方に厨房のお手伝いや洗濯物たたみなど、日頃のできることで役割を持ってもらったり、利用者の方と一緒に楽しむということを大切にしている。また、思いやり合うこと、感謝の気持ちを伝えることを心がけて利用者の方との関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方から情報を得たり、面会時にはその都度ホームでの生活状況を報告している。また、ホームの行事にもできるだけ参加して頂き、利用者の方と一緒に過ごしてもらえるよう声かけしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には、馴染みの方とゆっくり過ごしてもらえるように心がけている。また、外出は行うように心がけているが、馴染みの場所への外出支援は十分に行えていない。また、馴染みの方や場所の話を会話の中にも取り入れるよう心がけている。	
			(外部評価) 利用者のフェイスシートには、利用者や家族から聞いた馴染みの人や場を追記して毎年更新し、誰が見ても利用者がわかるように書類を整理している。病院受診の帰りに家族と外食をしてくたり、西条祭りのときに自宅に外泊するなど、これまでの関係を継続できている利用者もいる。入居して長い利用者には、利用者同士での新たな馴染みの関係ができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中で利用者の方と職員が関わる時間を多く持ち、利用者の方同士の関係が把握できるように見守りや声かけを行い、孤立しないように努めている。また、座る位置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方の面会へ行き、家族の方からの相談に応じたりその後の様子を伺ったりしている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気づくりを心がけており、得た情報はフェイスシートを利用して職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては家族の方に相談したり日々の関わりの中で言葉や表現から把握するように努めている。 (外部評価) 士いじりが上手な利用者や畑や花壇の手入れを行ったり、家族の家事を長年してきた利用者とは食事の下ごしらえを行ったりと、利用者の暮らし方を尊重した支援に取り組んでいる。思いや意向を表すことが困難な利用者は、表情やしぐさをよく見て細かいことにも目を向けて把握し、職員間で話し合い利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し職員間で共有している。同一法人内の別事業所を利用されていた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。医療面に関してはカルテに赤枠で記入し、大きな変化の時には、ケアプランやフェイスシートに記入しながら、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度、介護計画書の見直しを行っている。	
			(外部評価) サービス担当者会には、利用者や家族、看護師、介護支援専門員、職員等が参加して、介護計画の見直しを行っている。職員は、介護記録を見返したり利用者の情報を伝え合ったりして、計画の見直しに活かしている。モニタリングは3か月に1回行っている。記録ファイルに利用者毎の目標をはさみ、介護計画に基づいてケース記録を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践などはカルテに記載しているが不十分などところがある。また、気づきや状態の変化は、カルテや介護計画書に付け足して記入するなど、見直しの際に活かしている。情報の共有については朝夕の申し送りや入居者情報を用いて伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また地域の運動会やお花見など個別のニーズに合わせて参加するようにしている。医療面では訪問看護にフォローしてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くのスーパーで買い物をしたり、パン屋さんも来てくれており楽しまれている。近隣の病院や市の相談員の方、警察の方の協力や、防火訓練時には消防の方にも来てもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者の方、家族の方の意向を確認し、協力病院がかかりつけ医になっている方が多いが、入居前からのかかりつけ医を継続されている方もいる。受診後には受診状況を家族の方に連絡している。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。月2回、協力医の往診があり利用者の健康管理をしている。受診時には家族に受診状況を報告し、情報を共有している。利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て受診することができ、受診状況や検査結果を家族から事業所に報告し共有できるようにしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 利用者の方の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。また、職員はいつもと違う様子に気づいた時には協力病院へ連絡をし、受診をしたり、本社の訪問看護ステーションの看護師に報告し相談も行って</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入退院時には、主治医や、ケースワーカーとの連携を持ち、情報交換を行い退院後の受け入れ態勢を整えるように努めている。また、医療機関の勉強会に参加するなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期を迎えるにあたり、早い段階から家族の方、医師との話し合いを持っている。終末期に関しての指針（家族の方、主治医の協力がある。医療行為は行わない）を定めており、説明を行うようにしている。職員間の意識の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針と同意書を作成しており、入居時に説明し、利用者や家族の意向を聞くようにしている。協力医とは24時間体制での連携が取られている。また、隣接するデイサービスの看護師や訪問看護職員、看護師の代表者との体制も整えられ、利用者は安心して生活を送ることができている。終末期の支援には家族の協力を得ており、家族は夜間に利用者の居室に泊まることで支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を毎月行い、2回/年の訓練時は消防署の方立ち合いのもと、夜間想定での避難訓練を行っている。近隣の病院や企業に協力の依頼をしている。昨年より1回/年津波想定での避難訓練を導入し行っている。 (外部評価) 毎月、避難訓練を利用者と一緒に行っており、職員の防災意識の高さが伺える。また、年2回の消防署の協力を得た訓練では、夜間を想定して通報や非常ベルなどの初期対応や避難を行っている。事業所は海から近く、津波に対する避難訓練を年2回に増やす予定である。備蓄品として、水、非常食、おむつを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の関わりの中で、人生の先輩として人格を尊重した関わりを持つように努めている。今後も、職員同士で声をかけ合いながら、常に声かけや対応に配慮するよう心がけていきたい。 (外部評価) 利用者への言葉づかいは、職員同士で声かけをして気を付けている。入浴や排せつ、着替えなどで同性介護が必要な時は、利用者の気持ちに配慮して対応し、声かけの方法について職員間で共有するように努めている。認知症ケアの社内研修があり、利用者一人ひとりを尊重するケアが心がけられている。書類は事務所で保管し、個人情報の保護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が自分で選択・決定できるような言葉かけを心がけている。自己表現しにくい方には表情やしぐさなどから思いをくみとり、職員間で情報の共有に努めて利用者の方に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り、利用者の方の希望を聞き、本人さんのペースに合わせて生活してもらえよう努めているが、自己表現しにくい方や自分で歩くことの出来ない方は本人さんのペースで過ごせていない場合もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床し洗顔した時にくしで髪をといてもらっている。介助の必要な方に関しては職員がこまめに目やにをふきとったり整髪するなど意識して行っている。服装もなるべく好みの物を着てもらっているが、選べない方に関しては、職員が選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々の食事作りは職員が行っているが、エビの皮むきやもやしなどの下ごしらえや、おかずのつぎ分けなどは利用者の方と一緒にしている。また、1回/月昼食作りやおやつ作りなどを計画し、一緒に作るなど楽しみにつながるよう努めている。	
			(外部評価) 調理を中心に担当する職員がおり、台所で3食の食事とおやつを手作りし、利用者からおいしいと喜ばれている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。月1回、利用者と一緒にたこ焼きや焼きそばなどを作り、利用者が食事を楽しめるよう取り組んでいる。誕生日会では、ケーキをみんなで作ったり、利用者の食べたいものを食べに外食へ出かけたりするなど、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が、栄養バランスを考え献立を作成し記録表に食事や水分摂取量を記入して必要量が確保できるように心がけている。また、状態に応じて水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけを行い、利用者の方に応じた口腔ケアを行っている。定期的に、義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけ時間や習慣を把握する為に一人一人の排泄情報を記録している。排泄記録表を確認しながらトイレ誘導を行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分のみ介助に心がけている。	
			(外部評価) 排泄記録表には、利用者毎の排泄状況のほか、水分量や食事量も記入して、排泄間隔や体調を把握している。職員は、利用者のしぐさに気づくように努めており、トイレへの誘導をして排泄を支援している。夜間のみ居室でポータブルトイレを利用したり、オムツを使用する利用者もおり、身体状況に合わせて排泄用具を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつにて消化のよいものや野菜類など多く食べてもらっている。また、水分摂取量確認し、飲みにくい方に関しては、ポカリやココアなど本人さんの好まれる物で水分を十分に補うようにしている。リハビリや散歩で体を動かすようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その都度、利用者の方に声かけし、意向や希望を確認して入浴してもらっている。基本的に曜日は決まっていないうで自分で訴えることの難しい方に関しては職員の都合になっている場合がある。	
			(外部評価) 脱衣室や浴室は余計なものは置かずすっきりと片付け、利用者が動きやすいように配慮されている。入浴回数は夏は週3回、冬は週2回を目安として、利用者の入りたいときに入浴できるよう支援している。利用者の好みの湯の温度、入浴剤、シャンプーなどに対応したり、体調に応じて清拭や足浴の支援を行い、利用者一人ひとりの入浴、清潔、安楽の支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の様子や体調などに合わせて居室で休んでもらったり、ソファでくつろいでもらったりしている。自分で寝返りをうてない方などに関しては、安楽な体位で休んでもらえるようクッションを使用したり、定期的に体位変換を行い気持ち良く眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カルテに薬の説明が記載されている表を閉じ、理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干しや洗濯物たたみ、食事の準備などの状態に応じて、できる事をしてもらっている。嗜好品については、食事以外で近くのスーパーへ一緒に買い物へ行ったり、ホームに来られるパン屋さんを利用し、それぞれ利用者の方の好きなパンを買って食べてもらったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方で希望にそって戸外に散歩に出かけたり、近くのお店で買い物をしたりしている。行事の時にも外食に行くなど家族さんの方の協力を得ながら行っているが、かたよった利用者の方になってしまっている。 (外部評価) 日頃から敷地内や事業所の周辺を散歩したり、近隣のホームセンターへ買い物に出かけたりできるよう支援している。車いすの利用者には、事前に外出先の下見をして外出できるよう取り組んでいる。車両が3台あり、利用者全員で遠足に出かけることもある。利用者から趣味であるカラオケや野球観戦に行きたいなどの希望があり、今後、希望に応じた外出に対応できるよう検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の協力を得てお小遣い程度で持ってもらっている方もいるが、ほとんどの方はホームでお金を預かったり、立て替え等で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員の介助にて、家族の方と希望時に電話で話してもらっている。手紙の支援は出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除に心がけており、換気や室温調整に努めている。また花など季節に応じた物を飾るようにしている。テレビの音や職員の声のトーンに気をつけ、日中は眩しくないように、時間や天候に合わせてレースのカーテンを使用している。	
			(外部評価) 事業所は和風の造りで、杉の木をふんだんに使用しており、落ち着いた色の木材や暖かい色の照明を使い、和やかな雰囲気を感じる空間となっている。掃除を徹底することを心がけており、環境整備班を中心に定期的に点検をして、清潔で居心地の良い事業所を目指している。庭が広く芝生が敷かれ、花壇や畑では季節の植物を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにソファを置き、自由に過ごせるようにしている。また、玄関先のベンチでゆっくりと過ごされる方もいる。気の合う利用者の方同士、食堂で一緒に食事をしてもらったり、隣同士に座ってもらい過ごせるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 少しずつではあるが、自宅で使っていたものを持って来られ、家族の方の写真や絵を置いたりされている。また、好まれる花を飾っている方もおり、居心地良く過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 居室にはエアコン、テレビ、整理ダンス、ベッドが備え付けられており、ベッドは身体状況に合わせて変更している。季節ごとに衣替えを家族と担当職員が一緒に行っており、整理整頓されている。シーツ交換や掃除を利用者と一緒に行うこともあり、できることを一緒に行うようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。廊下には歩行の障害になるものは置かないようにしている。また、各居室には名札があり、わかりやすくしている。	